

## 今「企業ファイナンス」が面白い

BREMER, Marc

私の主な研究分野はCorporate Finance (企業金融)です。企業金融は安定した時代に注目されることは少なく、また複雑な数式による価値評価やあいまいなリスクの測定に始まっているように見える分野です。しかし、今、金融の世界は、刺激的でかつ危険に満ちた分野になってきています。金融がうまく機能していなければ、世界に大きな問題を引き起こすこととなります。金融システムが機能せずに深刻な事態を招いた例として、サブプライム・ローン危機やヨーロッパの金融財政危機が挙げられます。こうした大惨事を引き起こしたのは、金融メカニズムの問題点、誤った金融規制、金融取引の不透明性などです。

現在、私が興味を持っている研究テーマは、適切な企業の借入れ比率を求める問題です。企業は製品やサービスを作り出すために資産を必要としますが、その資産を獲得するための資金は金融業者や株式投資家から調達しなければなりません。この資金を銀行や債券投資家から借入れることによって、借入れコストを下げ、減税を期待できるという利点がある一方、負債の増加にともなって財務リスクも増大します。企業は、銀行や債券による借入れと株式投資家からの資金調達を最もよいバランスで行う必要があります。私の興味は最適なバランスを見つけていくことにあります。

$$WACC = \frac{D}{D+E} \times (1-\tau) \times r_{debt} + \frac{E}{D+E} \times r_{equity}$$

企業の資金調達コスト(WACC)を求める式

ブレマー・マーク

経営学部経営学科 教授  
専攻分野は「経営財務論」。  
長期研究テーマは「Financial Deregulation」(Bank Governance)。  
主な著書は「An Introduction to Corporate Finance」(共著 日経書籍 2007)。

## 私の研究



にあります。簡単に言うと、事業分野が安定しており、有形資産を多く保有する成熟度の高い企業ほど、借入れを増やすべきなのです。一方、リスクが高く、有形資産が少ない企業は借入れを減らした方がいいのです。

多くの日本企業の利益成長率は低いものの、成熟した事業分野においては相当な利益を上げています。こうした企業は日常業務の一貫として借入金の大半を返済しました。その結果、日本における多くの健全企業は「過少借入」の状態にあり、現金の保有高が高すぎる状況になってしまいました。私の研究によれば、企業の負債水準が必要以上に低く、現金の保有高が多過ぎると、経営判断を誤る可能性が高くなる傾向が見られます。

健全な企業は借入れを増やし、余分な現金は自社株を買戻すこと(自社株買い)や配当を増やすこと(増配)で、株主に返還すべきなのです。それによって、日本経済の成長も期待できると私は思っています。



以前、大学の広報で使用されたブレマー先生のポスター(背景のホワイトボードには、ブレマー先生の研究分野に関する講義内容が書かれている)

## 「民訴」が「眠素」にならないゼミ

渡邊 泰子

わたなべたいこ

法学部法律学科 講師

専攻分野は「民事訴訟法」。  
長期研究テーマは「裁判手続における裁判員と当事者の役割分担」。  
短期研究テーマは「裁判官の裁判執行のあり方」。  
担当科目は「民事訴訟法A」「民事訴訟法B」。「民事訴訟法C」「民事訴訟法D」。「民事訴訟法E」。

本年度、私が担当しているミドル演習では、所属する学生の大半が民事訴訟法A・Bという講義を並行して受講しています。そこでゼミでは、講義で説明している基礎的な民事訴訟手続の流れをベースに、そのなかで重要な論点をいくつか取り上げ、別の角度から手続を見ることを心がけています。民事訴訟法を初めて学ぶ春学期には論点の概説と論点ごとの簡単な事例を、徐々に知識が増えてくる秋学期にはいくつも論点が隠されている事例を素材にしているのが、学生が論点の抽出やそれに対する考察の仕方を自然と身につけることができます。



「ミドル演習」の講義で解説している渡邊先生



ゼミの学生が論点について話し合っている様子

## 私のクラス



## Campus Topics

### 「日独交流150周年記念ドイツ語劇に出演して」

神尾 晃栄(外国語学部ドイツ学科4年)

日独交流150周年記念協同演劇プロジェクト  
南山大学ドイツ語劇アンサンブル  
「デアトロ アフェット」(ドイツ連邦共和国エッセン市)  
演題「風が、愛する者たちを無の国へ連れ去ろうとも」  
南山大学2回、東北は石巻専修大学、東京・上智大学でも公演



日独交流150周年「日独演劇プロジェクト」ポスター

「出演してみないか?」と声をかけていただいた時から練習が始まるまで、自分が日独150周年記念ドイツ語劇という大きなイベントに参加してもいいものかと不安に思っていました。大学でドイツ語劇を経験していた私ですが、ドイツ長期留学をしたわけでもなく、ドイツ人のプロの劇団の方たちときちんとコミュニケーションを取って演劇ができるかということも心配でした。

練習が始まってみると予想と反して、実に和やかな雰囲気の中で、ドイツ人スタッフは発声練習や演技の基礎などを見てくださって、抱えていた緊張や不安は薄まってきました。しかし、練習が本格化していくにつれ、プロの劇団らしいこだわりや美意識を演技に要求されはじめ、引き込まれるように学生側も自分の役と真剣に向き合い練習に打ち込むようになりました。そうしてプロとか素人という線引きを越えて自分たちなりに考えた解釈を伝え、「お稽古をしましょう」から「一緒に劇をつくりあげる」と変化



ミチャエルとローレレイ、海の精たち



筆者 前列右側、後列右から4人目シュタンツェル大塚、右側「カルマノ」学長

していったのは今振り返ると、大変意義のあることのように思います。

今回のプロジェクトで私たちが得たものはプロのテクニックとかドイツ語力とか単純なものではなく、異なる文化、言語、ジェネレーション、立場を越えて1つものをつくりあげることの喜びだったと私は思います。こうした貴重な体験が得られたのも、シュタンツェル駐日ドイツ大使をはじめ、ずっと応援してくださっていたカルマノ学長、本当に私たちのすべてを支えてくださったドイツ学科・林田先生や、学校に向けた取り組みや、学生としてどのように身近な環境問題に貢献できるかなどが発表されました。同じ世代の学生がアジア



ローレレイと主人公カツコウ



海の精たち

## 南山のDNA DNADNADNA

### 想いを行動に変える力

細貝 征弘 総合政策学部 2009年卒業



大学時代には、国際問題を中心に様々な分野に興味を持ち活動する。現在は電子書籍やデジタルコンテンツの開発を行う会社を経営。

国際問題に興味を持ち、南山大学総合政策学部に入學。在学中は、NPO法人G-net理事や国際NGOにおけるボランティア活動などを行う。卒業後、株式会社リクルート事業開発室にて新規事業の企画・営業に従事。現在は、電子書籍およびデジタルコンテンツ開発を行う株式会社Lifebook代表取締役として活動中。

「総合政策学部で国際問題を勉強したい」という想いから南山大学に入學しました。アメリカ同時多発テロに影響を受け、将来は国際問題の解決に携わることがしたいという想いを胸に、在学中は名古屋模擬国連でも活動しました。また、南山大学交流会館に住み、外国人留学生と楽しく共同生活を送りました。

在学中の長期休暇は、インドやアフリカ諸国など約20ヶ国を旅しながら国際NGOに参画。日本国内では、地域活性化を目的としたNPO法人G-net理事として活動していたことから、様々な分野で活躍されている方々とあらゆる社会問題に対してアクションを起こしていました。南山大学では色々な問題に



学生時代の夏で様々な場所を訪問(インド・ヒマラヤ圏)



現地で活動するNGOに飛び込みでボランティア参加(リビア・シビア湖畔)

## International Friendship

### ASEACCU国際会議に参加して～自分磨き～

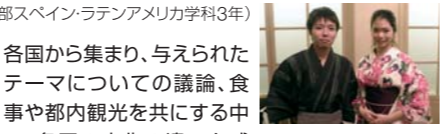
若田 康裕(総合政策学部総合政策学科4年) 高松 玲子(外国語学部スペイン語アメリカ学科3年)

8月25日から28日まで上智大学にて、第19回ASEACCU国際会議が開催されました。ASEACCU(Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities)とは東南・東アジア(オーストラリア、インドネシア、フィリピン、タイ、台湾、韓国、日本)にあるカトリック大学連盟です。今年の国際会議のテーマは「神の創造物へのいたわりーアジアの視点に立った環境問題への対応」で、環境と開発の調和という世界共通の課題について意見交換が行われました。

学生はグループごとにディスカッションをして、それぞれの国の視点からの意見や考えをまとめていきました。最終日のプレゼンテーションでは、各校に向けた取り組みや、学生としてどのように身近な環境問題に貢献できるかなどが発表されました。同じ世代の学生がアジア



プレゼンテーションの様子



左 若田 右 高松

各国から集まり、与えられたテーマについての議論、食事や都内観光を共にする中で、各国の文化の違いを感じ、自国を見つめ直すことができました。また、会議は全て英語で行われ、母国語が違っていてもコミュニケーションを可能にしてしまう英語の素晴らしさと重要性を再認識することもできました。

このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、会議で出会った仲間とは今後も切磋琢磨する関係を保ってきたいです。そして、国際社会で活躍できる人材になるために、南山大学でまた「自分磨き」を続けていきたいと思っています。



左から、若田、カルマノ学長、渡辺国際教育センター長、高松

## Information

### ◆2012年度学生納入金改定についてー授業料、施設設備費とも据え置きを決定ー

2012年度南山大学学生納入金について、2011年9月30日開催の南山学園理事会は、「入学に際しての宣言」に示された授業料改定方式をもとに検討した結果、授業料・施設設備費とも改定率を0%とし、授業料を据え置くことを決定しました。授業料改定率は、人事院勧告による国家公務員給与改定率と本学が独自に設定する教育・研究条件改善率を合算して算出しております。2012年度の場合、2011年度国家公務員給与改定率が0.23%となっており、教育・研究条件改善率を0.23%としたため、授業料改定率は0%となりました。施設設備費についても、現状で大学の施設設備取得費および維持経費増には対応可能と判断し、据え置きを決定いたしました。

#### ◎名古屋キャンパス学部学生

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科1年生および2年生のLL実習費を現行の18,000円に据え置き、3年生のLL実習費を9,000円とする。

#### ◎名古屋キャンパス大学院学生

ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料

### 寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力を感謝いたします。  
三機工業株式会社 中部支社 様  
中村 孝 昭 様 藤田 宏 己 様 佐藤 進 様  
前号(178号)の記載につきまして以下のとおり訂正させていただきます。  
【誤】河合伸行様 → 【正】河合信行様



## 南山大学

2011.12.20

## 南山大学広報誌

# NANZAN bulletin vol.179 2011.12.20



左から、若田、カルマノ学長、渡辺国際教育センター長、高松



## 未来へつづく道。

# NANZAN UNIVERSITY

発行 学長室  
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18  
Phone : 052-832-3113(直通)  
E-mail:gaku-koho@nanzan.ac.jp  
http://www.nanzan-u.ac.jp/

## 私たちが伝える、日本の伝統文化

南山大学の国際性は、大学設立当初からの特色ですが、同時に本学は地域社会と深く結びついた大学です。つまり、グローバルな面とローカルな面、両面持ち合わせた大学といっただいでしょう。ここでは、地域に根ざした活動、とりわけ日本の伝統文化の分野において活躍している学生・教員を紹介します。

### 名古屋城文化フォーラム主催「春姫道中」の春姫役に 外国語学部英米学科3年の竹島小百合さん

10月2日に開催された名古屋城文化フォーラム主催「春姫道中」で、春姫役を英米学科3年の竹島小百合さんが勤めた。「春姫道中」とは、名古屋城本丸御殿の復元に取り組む「名古屋城文化フォーラム」が毎年開催しているもの。今年も4月に予定されていたが、東日本大震災の発生で延期した。竹島小百合さんは春姫役を勤めた感想として「春姫道中は、初代尾張藩主・徳川義直に嫁いだ春姫の奥入りを再現したもの。一般の県民・市民を中心に行われ、全国的にも貴重な文化活動です。武士に扮した子ども達からご年配の方々まで多くの方が参加され、活気あふれる行列となりました。今後は、この経験を活かし、文化や笑顔を伝える役目を担っていかれたらと思います。」と語った。



左から河村たかし名古屋市長、大村秀幸愛知県知事、春姫役の竹島小百合さん

### 「名古屋まつり」郷土英傑行列の千姫役に経営学部経営学科2年の亀井佑佳さん

10月15・16日に開催された「名古屋まつり」の郷土英傑行列で、三姫のうちの千姫役を経営学科2年の亀井佑佳さんが勤めた。亀井佑佳さんは千姫役を勤めた感想として「名古屋まつりを楽しみにしていた多くの方々に、笑顔を届けるという、大変貴重な経験をさせていただきました。今でも、皆様からの多くの温かい声援を忘れることはできません。南山大学の学生として、国際性を養いながら今回のように地元名古屋の魅力を発信していけたらと思っています。」と語った。

### 吉列顔見世大歌舞伎(御園座)「助六由縁江戸桜」河東節に 人文学部日本文化学科・安田文吉教授が出演

10月1日から25日まで御園座(名古屋市中区)で上演された「第四十七回吉列顔見世大歌舞伎」に日本文化学科・安田文吉教授が出演した。出演した演目は歌舞伎十八番の一つである「助六由縁江戸桜」。劇中では浄瑠璃の「河東節(かとうぶし)」が演奏されるのが特徴で、地元の財界人や歌舞伎ファンで組織される「河東節十寸見会」に今回、安田文吉教授も参加。安田文吉教授は「名古屋での市川団十郎・海老蔵親子共演は名古屋・若宮八幡宮で演じられた嘉永7年の若宮芝居にさかのぼる。よって、今回は157年ぶりの団十郎親子共演となる。そのような舞台に出演できたことは誠に有難いことです。」と語った。



歌舞伎「助六由縁江戸桜」の一場面。登場人物後背の赤い格子(御簾)の中で、河東節十寸見会による演奏がおこなわれる【写真提供:御園座】

お稽古本を持つ出演直前の安田文吉教授

# 特集 南山大学法科大学院の法曹教育

～人間の尊厳を基本とした倫理観を身につけ、社会に貢献できる法曹の育成～

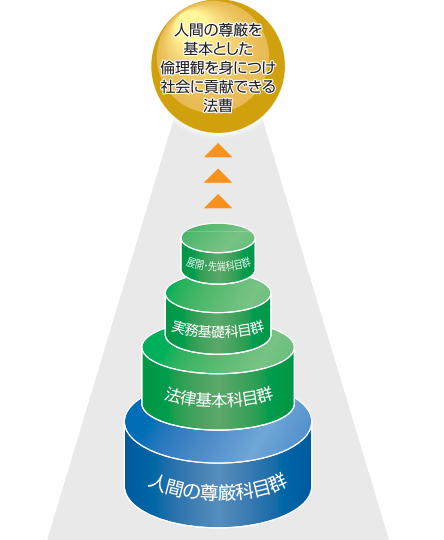
## ごあいさつ

法務研究科長 丸山雅夫  
南山大学法科大学院は、南山大学の教育モットーである「人間の尊厳のために」にもとづいて設置され、確固とした倫理観と人権感覚を涵養するとともに、高度な専門知識と技量を習得させ、社会に貢献できる有為な法曹人を育成することを目的にしています。南山大学法科大学院は、高い意識と強い志を持って法曹人になろうとする人に対して、広く門戸を開放し、勉学を支援しています。次代を担う法曹の育成に、これからも積極的に取り組んでまいります。

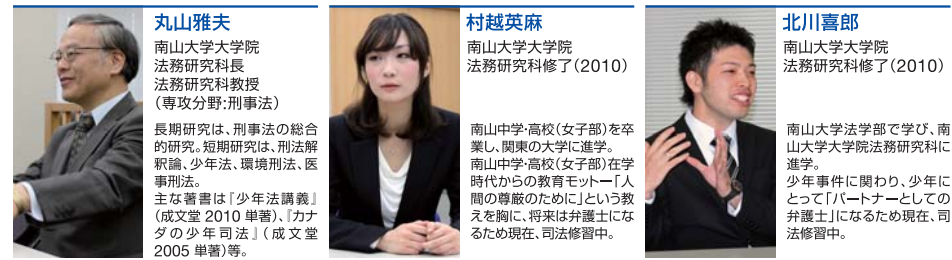
**2011年度 新司法試験結果**  
2011年度新司法試験では、「21名」の合格者を送り出し、合格率も全国平均を超えている。



## 高い学習効果を保証する南山大学法科大学院法務研究科のカリキュラム



※南山大学法科大学院法務研究科の入試情報ならびにカリキュラム等の詳細については南山大学Webページをご覧ください。  
<http://www.nanzan-u.ac.jp/>



**丸山雅夫** 南山大学大学院法務研究科長 法務研究科教授 (専攻分野: 刑事法)  
長期研究は、刑事法の総合的研究。短期研究は、刑法解釈論、少年法、環境刑法、医事刑法。  
主な著書は「少年法講義」(成文堂 2010 単巻)、「カナダの少年司法」(成文堂 2005 単巻)等。

**村越英麻** 南山大学大学院法務研究科修了(2010)  
南山中学・高校(女子部)を卒業し、関東の大学に進学。南山中学・高校(女子部)在学中から教育モニター「人間の尊厳のために」という教えを胸に、将来は弁護士になるため現在、司法修習中。

**北川喜郎** 南山大学大学院法務研究科修了(2010)  
南山大学法学部で学び、南山大学大学院法務研究科に進学。  
少年事件に関わり、少年にとって「パートナーとしての弁護士」になるため現在、司法修習中。



## 法務研究科座談会

2011年度新司法試験に合格した本学法務研究科修了生と法務研究科長による座談会を開催した(法科大学院棟模擬法廷教室にて)。

南山大学大学院法務研究科の特色を教えてください。

**丸山** 大学の教育モットーである「人間の尊厳のために」という名称がついた法と人間の尊厳を多角的に検討する「人間の尊厳科目群」をはじめ、カリキュラムなどの制度設計がきちんとされ、機能していることが大きな特色として挙げられると思います。

**村越** 丸山先生と同意見です。「人間の尊厳」を重んじることは法曹界では不可欠であり、カリキュラムに組み込まれていることにより、おのずと「人間の尊厳」という観点を大切にするようになりました。

**北川** 「法務エクスターナシップ」の委嘱先が豊富かつ充実しているというのも大きな特色ではないでしょうか。私は「法務エクスターナシップ」を利用し、実際に法律事務所の仕事をお手伝いさせていただき、その中で弁護士としての姿勢、考え方を大いに学ぶことができました。「法務エクスターナシップ」の経験を通じて、法曹界で生きていくことを再確認することができました。

**村越** 実務家教員の熱心さと、アドバイザー制の充実も特色のひとつでしょう。新司法試験の勉強中など、若手弁護士であるアドバイザーの先生によく質問に行きました。法務研究科の先生方は、非常に熱心にご指導いただけるので、その期待に応えなくてはという気持ちも生まれました。

**北川** たしかに私もアドバイザーの先生に

**丸山** 法律の勉強は「木を見て、森を見ず」になりがちですが、ひとつの事象に対して、俯瞰的に全体像を見られるようになったら面白くなります。法律というものはいわゆるひとつの「答え」があるわけではなく、適切といわれているもののその「適切さ」の種類も様々で幅も広い。そのことに気付いた時に、おのずと道が拓けてきます。

これからの人生設計、目標を教えてください。

**村越** まずは司法修習において、しっかりと学び、将来は特定の専門分野でスペシャリストといわれる弁護士になりたいです。

**北川** 私も同じく司法修習を受け、その後に控えている最終試験合格を目指して再び勉強と実習の日々です。将来は、昔からの夢である少年事件を扱う弁護士になれたらと思っています。

**丸山** 村越さん、北川さんをはじめ南山大学大学院法務研究科を修了した方々には、広い意味での「社会正義を実現する法曹人」になっていただきたいと思います。

## 南山大学連続講座「大学で、未来の自分を探してみよう!」裁判員を体験しよう!

小学生が南山大学の先生や学生と一緒に学ぶ楽しい体験型の講座、南山大学連続講座「大学で、未来の自分を探してみよう!」(全6回)が昨年度(2010年度)から開催されている。その中の「裁判員を体験しよう!」は、大学内の模擬法廷教室にて法務研究科生のアドバイスのもと実際に小学生に裁判員、弁護士、検察官などを体験してもらうという企画。この講座をきっかけに、法律に興味を持ち、ひいては社会正義を実現する法曹人を目指す少年少女が出てくることを願っています!!



今年度の連続講座「裁判員を体験しよう!」の様子

## Special events

### 9.24 第39回「父母の集い」

9月24日、名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて第39回「父母の集い」が開催された。ミカエル・カルマノ学長、加地隆文後援会理事長(名古屋キャンパスにて)、加藤真澄副理事長(瀬戸キャンパスにて)の挨拶に続き、本学担当者より学生生活、海外留学、就職状況などについて説明が行われた。また全体会に続いて、本学教員(心理人間学科・津村俊充教授、英米学科・鈴木達也教授、スペイン・ラテンアメリカ学科・牛田千鶴教授、フランス学科・ダヴィッド・クーロン准教授)による「日本と外国の教育事情比較～親子のかかわりに求められるものは?～」と題したパネルディスカッションが行われた。質疑応答



パネルディスカッションの様子(左からクーロン准教授、牛田教授、鈴木教授、津村教授)

### 10.15 南山大学Web説明会「NANZAN WEB LIVE」

10月15日、南山大学Web説明会「NANZAN WEB LIVE」が開催され、インターネット上で生中継された映像を全国各地から数多くの方が視聴し、ときにチャット等で参加した。南山大学での学びや就職活動のこと、学生や教員の雰囲気などを感じていただけたのではないかとと思う。また今回、ご参加いただけなかった皆様には、当日のNANZAN WEB LIVE映像を本学Webページより、是非ともご覧いただきたい。



実際の放映映像(NANZAN WEB LIVE司会学生二人)

### 10.15 駐日チリ共和国大使館特命全権大使講演

10月15日、名古屋キャンパスにおいて「南山大学地域研究センター共同研究 ソフトパワーと平和構築第12回研究会」が開催された。講師にバトリシオ・トレス駐日チリ共和国大使館特命全権大使をお招きし、「ソフトパワーと平和構築:チリと日本の外交関係と展望」と題した講演が行われ、研究会終了後には、研究者による大使を囲んだ交流会が行われた。



左から達音総合政策学部准教授、カルマノ学長、トレス駐日チリ共和国大使館特命全権大使、シモン南山学園理事長

### 10.15～23 10.25～11.6 図書館 秋の企画展「カトリック布教用図版展」

10月15日～23日(瀬戸キャンパス)、10月25日～11月6日(名古屋キャンパス)、それぞれ両キャンパスの図書館にて秋の企画展「カトリック布教用図版展～中国布教画の紹介～」が開催された。毎年開催している秋の企画展だが、今回の企画展では、本学が所蔵する8ヶ国800枚を超えるキリスト教布教用図版の中でも大変珍しい中国の布教画を取り上げた。キリストの生涯における有名な11場面を展示し、キリスト教への理解、資料への興味と関心を深めてもらった。



展示の様子-図書館プラザラウンジコーナー(名古屋キャンパス)

### 10.31 ハロウィン・パーティ

10月31日、名古屋キャンパスR棟3階ラウンジにて短期大学部主催「ハロウィン・パーティ」が開催された。「ハロウィン」とは万聖節のことで、キリスト教では11月1日に全ての聖人を記念する日の前夜祭。南山短期大学時代から行っている行事で、今回は短期大学部となって初のハロウィン・パーティ開催であり、短期大学部生にとどまらず、他学部の子生や外国人留学生、教員なども参加し、学生交流・国際交流の場となった。また学生のほとんどが仮装しての参加であり、互いの衣装や文化について語り合い、異文化交流の場もなった。



仮装した学生たち。手にはカボチャの提灯とお菓子を携えて。

### 11.3～11.6 NANZAN FESTIVAL 2011・第11回聖南祭

11月3日から11月6日(聖南祭は11月2-3日開催)にかけて、名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて南山大学大学祭が開催された。パレットの上で様々な色が混ざり合い、協力し、ひとつのものをつくり上げる喜びを分かち合うという想いを込め、名古屋キャンパス・南山祭の今年のテーマは「パレット」。過去10回(10年)の伝統を踏襲して「新しい一歩」を踏み出すことを桜になぞらえ、またコスモスの花言葉「調和」という想いも込め、瀬戸キャンパス・聖南祭の今年のテーマは「秋桜」。それぞれのテーマを胸に学生主体の大学祭が今年も盛会のうちに幕を閉じた。



両キャンパス大学祭のプログラム表紙(左:名古屋キャンパス、右:瀬戸キャンパス)

### 11.5-12 上智大学×南山大学 合同進学相談会@静岡/浜松

11月5日(静岡)ならびに12日(浜松)、昨年度に引き続き、受験生を対象に「上智大学×南山大学合同進学相談会@静岡/浜松」が開催された。6月に開催した「上智大学×南山大学 合同進学相談会@上野」に引き続きの進学相談会であった。上智・南山両大学のスタッフ・在学生によるコミュニケーションコーナーには熱心に入試方法などについて質問する高校生とその親の列ができ、来場者数は昨年度を上回る盛況ぶりであった。今後もコミュニケーションコーナーにおける相談の様子



コミュニケーションコーナーにおける相談の様子

### 2012.3.17 保護者のためのオープンキャンパス(告知)

2012年3月17日(土)、瀬戸キャンパスにおいて、高校生の保護者を対象とした「保護者のためのオープンキャンパス」が開催される。南山大学の大学概要説明や保護者向け模擬授業、個別相談やキャンパスツアーなどが実施される。今年度は、情報理工学部の実験見学ツアーや在学生・卒業生による学生生活の紹介、留学生おすすめの各国料理を食するワールドフードフェスタも実施する予定。大学を取り囲む環境が急激に変化しつつある昨今、本学の教育への取り組みを保護者に理



保護者向け模擬授業(昨年の様子)

## キャリア支援室

### キャリア入門B-キャリアを考えよう!～

10月から11月にかけて「キャリア入門B-キャリアを考えよう!」が、キャリア支援室と学部との共催で実施された。この企画は、春学期の「キャリア入門A-先輩と熱く語ろう!」に続き、学生たちが更にキャリア意識を高めることを目的として毎年実施しているものである。今年度も活躍中の卒業生を含む企業の方々を講師に招き、学部の特徴を活かした講座が開かれた。



#### 講座タイトル

- 「キャリアを考えてみよう!ファーストバイト」(人文学部と共催)
- 「企業の社会的責任(CSR)と企業で働くことの意味」(外国語学部と共催)
- 「グローバル企業の求める人材-学生時代のあなたへの期待-」(経済学部と共催)
- 「僕が思う商社の求める人材像-後輩へのメッセージ-」(経営学部と共催)
- 「職業とキャリア選択-経済社会の推移と働き方の変化」(法学部と共催)
- 「総合政策学部卒業生と語ろう!」(総合政策学部と共催)
- 「キャリアを考える-働くということ」(短期大学部と共催)

### 一般常識テスト(会場受験)・職務適性テスト

10月5日、1・2年生対象の一般常識テストおよび職務適性テストが名古屋・瀬戸それぞれのキャンパスで実施された。このテストは就職試験の際に多くの企業で導入されている。受験約2週間後に解説書とともに結果が返却され、キャリア支援室では希望者に対しその結果に基づき進路相談を行っている。1・2年生を対象としたキャリアサポートプログラムでは、毎年春・秋学期にそれぞれ1回実施し、次回は2012年6月実施予定。



### ビジネスマナー講座

10月19日および10月26日に1・2年生を対象とした「大学生として日常で活用できる」ビジネスマナー講座1・2が名古屋・瀬戸それぞれのキャンパスで実施された。学生たちは、日ごろ使い慣れない敬語を基本とする言葉づかい、挨拶、身だしなみ、コミュニケーション、電話応対等の各種ビジネスマナーについて熱心に練習し、学んでいた。



### 先輩の体験談

10月26日および11月9日に名古屋キャンパス、11月9日および16日に瀬戸キャンパスで次年度就職活動を迎える学生を対象に「先輩の体験談」が実施された。企業から内定ももらった4年生の先輩達が、体験談からアドバイスした。就職活動で役に立ったことや、反省点も含め、本音で語った。他では聞かない貴重な情報もあり、参加学生は真剣に話に聞き入っていた。積極的に質問する学生も多く見られた。

